

指定管理者評価シート

事業名	札幌市自閉者自立支援センター運営管理費	所管課(電話番号)	保健福祉局保健福祉部障がい福祉課(211-2936)
-----	---------------------	-----------	----------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市自閉症者自立支援センター	所在地	札幌市東区東雁来12条4丁目1番5号
開設時期	平成17年11月1日	延床面積	328.055㎡
目的	激しい行動障がい等を有する自閉症者(児)及びその家族に対する入所、通所による支援を提供し、その自立を目指す。		
事業概要	知的障害者施設入所支援 生活介護事業 自立訓練事業 自閉症・発達障がい支援センターの運営		
主要施設	知的障害者施設入所支援(入所30名短期入所6名) 生活介護事業(44名) 自立訓練事業(6名) 体育館 作業館 自閉症・発達障がい支援センターおがる 交流スペース		
2 指定管理者			
名称	社会福祉法人はるにれの里		
指定期間	平成29年(2017年)4月1日～令和3年(2021年)3月31日		
募集方法	非公募 非公募の場合、その理由:管理期間中の管理が良好であると認められたことから、札幌市福祉施設条例第13号第2項及び札幌市自閉症・発達支援障害支援センター条例第6条第2号の規定に基づき非公募とした。		
指定単位	施設数:2 複数施設を一括指定の場合、その理由:共通の目標の下、それぞれ支援を行うなど、極めて関連性の深い業務を行っており、また、一体の施設(建築物)であり、施設の維持管理等に関する業務を統括して行うことで業務の効率化が図られるため。		
業務の範囲	施設維持管理業務、施設事業計画及び実施業務、施設利用承認等業務		
3 評価単位	施設数:2 複数施設を一括評価の場合、その理由:共通の目標の下、それぞれ支援を行うなど、極めて関連性の深い業務を行っており、また、一体の施設(建築物)であり施設の維持管理等に関する業務を統括して行っているため。		

II 令和2年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価				
1 業務の要求水準達成度							
(1)統括管理業務	<p>▽ 管理運営に係る基本方針の策定</p> <p>▼法人理念のひとつである「どんなに重たい障がいがあっても当たり前の自分らしい生活を送ることができるよう事業運営する」ということを全職員が念頭に置き、個別支援計画に基づきながら「地域の暮らし」の実現に向かうという基本方針を引き続き継続している。</p> <p>▼令和2年度は、札幌市自閉症者自立支援センター(以下、ゆい)にとって、札幌市の指定管理者業務4期目(平成29年4月1日～令和3年3月31日)最後の年であった。コロナウイルス感染予防への取り組みについては、法人全体で感染予防の徹底と、利用者やご家族へも外出等の自粛及び3密を含めた予防啓発を継続しつつ、新しい生活様式の定着に向けて取り組みを進めた。</p> <p>時代の流れは常に変化しているが、ゆいの最も大きな使命は、利用者が地域の生活に戻り、安心して豊かな生活を送るための様々な取り組みを続けることである。</p>	<p>○ゆいが果たすべき役割を目指すためのキーワードとして「最前線と最高峰をめざして」を掲げ、そのために6つの具体的な指針を掲げ、柱となる観点からの取り組みを進めた。新しい生活様式の取り組みとして、マスク着用や手洗・消毒の他、日常生活では人との接触を意識した活動や余暇の実践に取り組んだ。共通認識を持つことで、向かうべき方向性を示すことが重要であったことをあらためて感じた。年末には職員全体でキーワードを振り返り、次年度の計画に繋げている。</p>	<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">A</td> <td style="width: 25%;">B</td> <td style="width: 25%;">C</td> <td style="width: 25%;">D</td> </tr> </table>	A	B	C	D
	A		B	C	D		
<p>▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績</p> <p>▼新規入所及び通所利用者に関しては、本人の状態や家庭状況、緊急性等のニーズを踏まえ、関係者会議を実施し決定する。令和2年度は、次のステップとして入所から1名の方が退所され、新たに1名の方が入所利用を開始した。また、生活介護では新たに1名の方が利用を開始した。</p> <p>▼短期入所・日中一時支援においては、コロナウイルスの影響から、緊急性の高いニーズについての受入れは進めつつも、利用の自粛が続くこととなった。</p>	<p>○令和2年度は、1名の方を東区にあるグループホームへ送り出し、新規入所利用1名、生活介護の新規利用1名であった。いづれも事前の情報を関係者で共有し、お試し利用など段階的に進めることで安定した利用に繋がっている。</p> <p>短期入所については、新型コロナウイルス感染予防の観点から、利用頻度は低かった一方で、受入れの際は行動履歴や健康状態を確認すると共に、感染予防の徹底に努めた。</p>	<p>・基本方針に則り、適正に管理運営がなされている。</p> <p>・強度行動障がい等を有する自閉症者が地域の中で生活を送るための組織力及び支援力向上に向けた取組は特に高く評価できる。</p>					

▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進

▼ガスの使用に関しては従来通り、冷暖房の空調やパネルヒーターで使用する冷温水を各所へ送るプログラム操作の「一括管理」を行うことで、ファンやポンプ系の稼働減・ボイラーの稼働減を推進し省エネに努めている。

平成28年度からは季節に応じた使用を前提とした契約～「小型空調用B契約」により、年間を通してフラットな使用により割安になるプランを継続している。昨年度9月に故障していたコージェネの機器も今期の5月には修理が完了し、従来通り稼働している。そのため、ガス使用量自体は前年度比で約5.6%増となっているが、単価が平均で11.54円下落したため、大幅な経費減となった。

▼ガソリン・軽油の使用に関しては利用者の特性から送迎時の配慮(個別送迎)が必要なことも多くあり、今までは、極端に使用量(額)が減少することはなかった。しかし、今期はコロナの影響で利用者の外出等の規制があったため総体で、15%程度減じている。

▼各エネルギー・資源の節約に関しては、引き続き、各所の節電(既に電球・蛍光管の間引きは実施済)・廃棄物の減量・リサイクル(「廃油の買取」・「裏紙の再利用」)「ダンボール・ペットボトル・缶の業者回収」等)に努めた。

▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

▼入所のABCブロックにおいては変則勤務のため、全員が集まることは難しい。ABCブロックだけでなく生活介護も含め、月に2回管理職も加わったスタッフミーティング、ユニットカンファレンスを定例化することができた。生活介護事業所については、常時利用者が活動しているため、利用日ではない月に一度の土曜日に職員が集まりミーティングなどで情報の共有が出来る日を設ける取り組みを継続した。不適応行動への対応として、早期に情報の共有を行い、適切な介入ができるようグループウェアやメール等を活用した他、短時間、少人数でもケースカンファを開くよう心掛けた。また各チームのリーダーが参加するゆい体制会議を月1回開催し、ゆい全体の日課や体制等、業務効率化について協議することができた。

隣接地に開所予定の地域生活支援センターなないろへの移行に向け、各職員が活動スペースのレイアウトを踏まえた動線や活動内容を検証の上、個別支援計画に反映させることができた。また、建物上の協議については毎週打合せを行い進捗状況に応じた協議を行った。

新型コロナウイルスの感染予防を意識した取り組み(最少人数での会議・リモート研修・情報伝達の徹底など)を深化させることができた。

▼新人職員と先輩職員がコンビとなってフォローしていくエルダーメンター制度を継続している。

令和2年度はフォロー期間を6か月とし、先輩職員の役割として具体的なサポート内容を示し確認した。月に2回ある運営カンファレンスで、新職員の状況を確認した他、新職員のためのミーティングを6月に開催し3か月間の振り返りと自身の仕事に対する目標の確認を行った。また8月に先輩ミーティングを開催し、新職員に対応する際の工夫したことなどを話し合い、情報を共有することができた。

▼スタッフの負担を減らすだけでなく、新たな人材発掘のためパートの増員を図るべく募集を募った。継続雇用のパート4名の他、新たに2名のパートを雇った。その内新年度に1名の本採用が決まった。

▼人材育成を推進するための研修機会として、ゆい塾を年4回開催した。自閉症の理解に繋がるものや、グループホームの暮らしを目指す意味、職業人としての意識、健康や権利を守ることの大切さと具体的な方法などである。いずれも新型コロナウイルス感染予防のため動画配信での視聴参加とした。

その他、座学である法人内研修についてもリモート開催など、感染予防を意識して参加した。

○令和2年度は前年度比でガスは5.6%増、電気は使用量が278,682KWで、前年度(291,090KW)比4.3%の減となった。今期、新電力に移行したため、北電使用見込み額より、12%の経費削減となった。ガソリンは約15%程度の減、軽油は軽油車の乗り換え(廃止)につき、54%程度の減となった。

○ゆいが大切にしている一つである「組織力を高める」というキーワードを全体に周知している。運営カンファレンスは各リーダーの運営参加意識をさらに高める場であり、リーダー・サプリーダー会議も各チームで毎月行うことができた。

○各職員の役割を明確に位置付け、サプリーダーのミーティングを年2回開催した。それぞれのチーム事情はありつつも、サプリーダーとしての役割をあらためて互いに確認する機会となった。

○作業委員会・環境向上委員会・人権推進委員会・余暇委員会の各委員長が集まるミーティングを年2回開催し、各委員会がゆいの中でどのような役割を担っているのか、すべての職員が委員会に参画するための工夫など互いに確認することができた。また、それぞれの委員会活動が全体に周知されるよう、事務所に「掲示板」を設置し啓発を行った。

○人事異動により新しく配属された職員が多い中で、学びを深めようとする意識が高くあるため、コロナ禍ではあるが、その想いが継続されるよう応援したい。

○エルダーメンター制度について、新職員から好評であった。また「先輩バディミーティング」を実施し、先輩職員からも、自身の学びが深まったことなど情報交換することができた。

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

▼『チーム支援』と称し、入所ABC各ブロックと生活介護の4チームでそれぞれ実践テーマを設定し、関係する職員全員が関わり、取り組んだ内容をスタッフミーティングの場で発表する機会を設けた。新型コロナウイルス感染防止の観点から、スタッフミーティングは最少人数での参加としているため、取り組みの報告を撮影し動画配信とした。毎年新職員が加入するが、その中でもチームで考え支援する意識が浸透し、結果として利用者のQOL向上に繋がっている。

▼法人内研修やおがる主催の研修に、複数の職員が参加した。リモート参加が主ではあったが、時間の制約なく視聴できるメリットがあったと考えている。また強度行動障害支援者養成研修についても、受講生やインストラクターとして参加し、多くの学びを得ることができた。

▼今期大阪で開催される予定であった5法人コラボレーションセミナー(北摂杉の子会様、横浜やまびこの里様、函館侑愛会様、国立のぞみの園様、はるにれの里)は、コロナウイルス感染予防のため、ウェブでの開催であった。例年同様に多くの実践を学ぶことができた。

▼ゆい塾では、多くの学びを提供するだけでなく、複数の職員が発表する場を設け、プレゼン力の向上に向けても取り組むことができた。

▼リモートではあったが、外部研修(福祉制度やメンタルヘルスに関するもの、強度行動障害に関するものなど)にも可能な限り職員を派遣し、それぞれのスキルアップやチームへの還元を目指した。また、法人内事業所への研修派遣も実施し、多くの職員が何かの研修に参加することを目指した。

▼当初予定していた実習生の受入れについて、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、全て中止することとなった。一部リモートで当センターの取り組みや法人の理念など情報交換することができた。

▼社会人としての成長を促すために、令和2年度は「勤務開始時刻には、仕事をバリバリはじめられるようにしておこう」「感染予防対策を実践しよう」「コロナウイルス対策を実践しよう」とした。少しずつの積み重ねが大事であると考えている。現場職員からの意見も参考にした目標設定を次年度も作っていきたい。

▼毎朝の打合せで、その日意識していきたいことを伝える取り組み(月曜日～交通安全、火曜日～あいさつ、水曜日～人権、木曜日～清掃・整理整頓、金曜日～エコ)を行い意識づけを図った。水曜日の「人権」を意識する曜日については人権推進委員会からの提案で、「利用者と同じ目線で関わりたい」というなど、より具体的な指標を示すことが出来た。

▼人権への取り組みとして、令和2年度は「利用者対応に関するセルフチェック」を2回実施。結果から見えた課題や1回目と2回目との数値的变化等について分析し、委員会から広報を発行し、フィードバックすることができた。

▼ディスカバリーレポート(事故に繋がる課題を発見する)の運用と書式を一部変更している。よりシンプルに、より報告しやすい仕様に変え、情報共有したことで事故の予防意識を高めることができたと感じる。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

▼厨房委託及び清掃業務については、窓口担当職員が決まっており、日々の現場での作業の確認を行っている。また、受託先の担当管理者とはその都度「情報共有」し、必要に応じて、即座に対応してもらえるようにしている。

▼施設設備管理については、点検計画に基づいて定期的実施しており、報告書により都度確認している。また、消耗品の交換、機器の不具合についても随時対応している。

▼新型コロナウイルス感染症対策として、日常の清掃に次亜塩素酸ナトリウムの使用を徹底するなど、受託業者と連携しながら、感染症予防対策を進めた。

○ゆいが大切にしたいことの中で「支援力を上げる」というキーワードで全職員に伝えている。各チーム年間で3つのテーマに取り組む「チーム支援」を実施した。各チームでアンケートを取るなどチームで考える意識が年々高まっている。それぞれの取り組みを啓発するために、コロナ禍ではあるが、最少人数で開催したスタッフミーティングで報告をした他、職場内スレッドの活用、事務所内の掲示コーナーや、報告を動画で配信するなどを行った。

○ゆい塾に関しては、「自閉症の基礎理解(5月)」「グループホームを知る、震災への対応(7月)」「コミュニケーション、感染症について(11月)」「ゆいバリューの振り返り、各委員会活動の振り返り、虐待防止、気道閉塞(2月)」の4回を開講した。いずれも新型コロナウイルス感染対策として動画配信とした。

○法人内でもさまざまな研修が行われた。動画配信が中心であったが、都合の合う時間での視聴が○ゆいが大切にしたいことの中で「人間力を上げる」というキーワードで全職員に周知している。4半期ごとの重点目標を各チームに配布し掲示した。意識を向けることだけでなく意識しつづけるための地道な取り組みと啓発が必要なことである。

○社会人としての成長については、まだまだこれからではあるが、ゆいの中で大切にしていきたいことについては、ゆいバリューとしてまとめた。

次年度も、このゆいバリューをキーワードにしながら事業計画を立案遂行していきたい。

○施設利用者の特性上、多くの配慮が必要な施設であることから、調理業務については、食塩や調味料の調整、減塩を重点的に取り組んだ。清掃については、利用者の行動に配慮した作業を実施している。施設設備管理についても、出入りする利用者さんへの配慮、作業日や時間の調整など細心の注意を払って対応している。

○入所利用者及び職員の新型コロナウイルス感染者はゼロであった。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
第1回 令和3年 3月9日(火) 資料郵送	1. 令和2年度運営状況報告 2. 令和2年度事業報告 3. 令和3年度事業計画 4. 意見交換(書面にて) 以上の件について、報告・助言頂いた。
<協議会メンバー> 札幌市障がい保健福祉部障がい福祉課 運営指導係長／札幌市自閉症児支援センター 施設長／北海道自閉症協会 副会長／札幌市東区東雁来連合町内会 会長／特別養護老人ホームひかりの施設長／(有限) カラーズ 代表／(社福)はるにれの里 理事長／事務局(所長・事務長・業務課長)	

札幌市自閉症・発達障がい支援センター(以下、おがる)においては、令和3年2月18日に連絡協議会を新型コロナウイルスの感染拡大防止のためオンライン(欠席者は書面)での開催をした。令和2年度の取り組みについての報告と、次年度の展望についての報告し、意見を返送いただき、その回答を再度関係機関へ書面にて周知した。参加者は、札幌市ピアサポーター、ペアレントメンター事務局、札幌市基幹相談支援センターワンオール、札幌市自立支援協議会(各専門部会)、札幌市精神保健福祉センター、子ども発達支援総合センター、札幌市教育センター、札幌市教育委員会、札幌市知的障がい者更生相談所まあち、札幌市児童相談所、札幌市子ども未来局、ハローワーク札幌、北海道障害者職業センター、札幌弁護士会、北海道警察本部生活安全部少年課、札幌弁護士会、札幌市障がい福祉課の方々であった。

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

▼資金管理については、「施設入所・生活介護会計」・「発達会計」の2会計による拠点区分間経理を行っている。また、監事監査による「内部監査」に加え、会計事務所による「外部監査」も受けている。

▼施設の現金等の取扱いについては、「法人経理規定」に基づき、利用者小遣いについては、「親和会規定(親の会)」に基づき処理している。親和会は、年2回の監査を受けている。

▼平成27年度から、新「社会福祉法人会計基準」に移行。平成28年度からは、新会計基準により適した「財務ソフト」にバージョン・アップし、固定資産管理(減価償却費計算)を法人自らがやっている。前期から消費税が10%になっているが、軽減税率の適用など、「外部監査」の会計事務所の指導の下、適正な処理を行っている。

次年度は「リース会計」の「原則処理」の導入が予定されている。

▽ 要望・苦情対応

▼第三者委員として利用者相談員2名(外部)を委任している。今年度も新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、相談員に資料を郵送し、ご意見を書面にて返送して頂く形にて実施した。一年間の日々のやりとりの中で要望・苦情等に関して報告し、助言を頂くことができた。

▼利用者やそのご家族とは、年3回の個別支援計画をもとにした個別懇談会(令和2年度は書類を郵送し、電話連絡)も実施し、支援の内容等をご家族とともに確認している。また、毎年保護者の方向けにアンケート(満足度調査)調査も実施している。

○今年度も新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、書面による会議形式とさせて頂いた。郵送した書類を確認し、ご意見を文書にて返送して頂く形で実施した。事業報告は、パワーポイントと補足資料を添付することで、取り組みを具体的に説明できるように作成した。

○オンライン会議システムを活用し、書面以外でも報告、関係機関とのテーマトークの機会を作り、当センターの実践への感想、次年度の取り組みについてご意見を伺うことができた。

○資金管理については、規定に従い厳正に処理している。ゆい・おがるに関しては、外部の会計事務所のコンサルの指導に基づき、また、「親和会」については、保護者監査、職員複数名により精査を行っている。現金及び通帳、印鑑の管理についても、複数が関与しなければ取り扱えないシステムとし、不正防止に努めている。

○令和2年度は苦情はあがっていない。相談員へ郵送した資料については、ご家族との懇談や電話連絡等で寄せられた不安や心配について、実際にどのようなやりとりを行い、どのように対応したかをまとめ、報告している。

	<p>▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)</p> <p>▼札幌市への月次報告を行っている。また、実地指導を年1回受け、業務の改善について逐次助言を受けられるようにしている。</p>	<p>○当該年度は新型コロナウイルス感染症対策をとりながら実施した。</p>					
<p>(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p>	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p> <p>▼就業規則を入所ABCブロック、生活介護、事務所に置いてあり、それぞれの職員がいつでも確認できるようにしている。</p> <p>▼職員には年間公休日107日以上を保証している。</p> <p>▼本人の休日や有休の希望に沿った勤務シフトを作成している。</p> <p>▼職員に対しては、時間外労働や夜勤業務を行った場合、法定割合以上の割増賃金を支払っている。</p> <p>▼パート職員の時給は、最低賃金861円(令和元年10月3日発効)を上回る時給950円を支給している。</p> <p>▼新型コロナウイルスの感染防止の観点から、当初の予定時期が変更にはなったが、年に1回定期健康診断を実施している。深夜業に従事する労働者には更に1回の定期健康診断を実施した。</p> <p>▼産休や育休に入る女性職員が毎年数名いるが、妊娠が分かった時点で、勤務に無理がかからないよう配置等の変更をすぐに行うようにしている。また、子育て中の職員に対し、お子さんの体調によって有給の使用等可能な限り配置上の配慮を行っている。</p> <p>▼人事考課制度を導入し、職員個々の目標設定と振り返り、意見交換などを上司と行った。</p> <p>▼セクハラやパワハラに対する相談窓口がある。</p> <p>▼産業医と契約し、毎月の会議ではメンタルヘルスに関することや、コロナ感染に対する助言等いただくことができた。また、建物内も巡回いただくことで、より具体的なアドバイスをいただくことができた。</p> <p>▼メンタルヘルスについてのチェックや講座を職場内で行った。メンタルヘルスについては第三者機関に依頼すると共に職員へのフィードバックも行った。</p> <p>▼嘱託職員から正職員への登用試験について、毎年実施している。</p> <p>▼休憩スペースを建物内に複数設け、飲み物やお菓子などを置いている。新型コロナウイルス感染対策として、個別の仕切り版や消毒セットを設置した。</p>	<p>○令和2年度も産休や育休の他、今期も全ての職員が5日以上の有給を取得するよう啓発を行ったこともあり、全ての職員が有給を取得することができている。</p> <p>○職員数に余裕があるわけではないが、本人の希望に沿った勤務シフトを作成している。また、常に見守りが必要とする利用者への支援が業務である中でも、引き続き休憩時間の確保に努めている。</p>	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table> <p>・仕様書に基づき、適正に施設の維持管理がなされている。</p>	A	B	C	D
A	B	C	D				
<p>(3)施設・設備等の維持管理業務</p>	<p>▽ 総合的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p> <p>▼緊急時の対応マニュアル(火事・震災・衛生・感染・入浴・事故など)を整備し、スタッフミーティング等で職員の啓発を常に行っている。特に、事故やディスカバリー(ヒヤリハット)報告があったものについては、人権推進委員会から、全職員に情報の発信を行った。また、深夜火災への対応シミュレーションや緊急連絡網の訓練も実施した。</p> <p>▼日本各地で起きている地震を教訓に、情報共有の体制や停電の対策を検討し、発電装置の設置についても札幌市と協議を進め、2021年度中に設置していただけることとなった。また、食料や飲料などの物資についても消費期限等の確認を定期的に行った。</p> <p>▼河川の氾濫に備えての防水計画を作成し、職員による避難シミュレーションとそれに基づいた利用者訓練を実施した。今期も土のうづくりと土のう積みを行った。</p> <p>▼防犯対策として、不審者侵入時の対策についての整備を継続している。1)正面玄関を人が通るとセンサーが事務室内で作動する 2)入所棟・通所棟への入口は外側からはカギがなければ入れないようにしている 3)建物周辺に監視カメラを設置し事務室にモニターを置いている。4)職員通用口の開錠パスワードを変更。</p> <p>▼利用者による建物への破壊行為等物損に関して損害保険加入を各個人にお願いし対応している。</p>	<p>○令和2年度は避難訓練(日中想定、夜間想定)、防災関連機器講習を実施し、火災発生(想定)場所を毎年変更し、避難経路の確認、火災報知器等の操作確認等を行った。救急救命法の講習については、新型コロナウイルスの感染予防の観点から実施することが出来なかった。代わりに、環境向上委員会を中心に、誤嚥や感染症について啓発動画を配信した。</p> <p>○地震発生の教訓から、情報伝達の方法や、非常災害物品、食料、飲料水などの備蓄、車両や発電機の燃料確保等確認した。</p> <p>町内役員の方と情報交換し、災害時の連携について協議した。</p> <p>○水害に対しての訓練を実施し、利用者への配慮すべき点なども確認した。</p>	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table> <p>・仕様書に基づき、適正に施設の維持管理がなされている。</p>	A	B	C	D
A	B	C	D				

	<p>▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)</p> <p>▼清掃、給食、施設設備点検は第三者委託のとおり実施している。</p> <p>▼警備については、暗証番号による電子錠、防犯カメラの設置(H29設置)により対策を行っている。</p> <p>▼入所エリア、通所エリアともに居住等空間の質を維持するため、修繕を進めてきた。</p> <p>▼冷温水発生器のポンプ破損は、札幌市障がい福祉課の緊急対応で新規に設置が行われた。</p> <p>▼予てからの懸案であった、施設の自家発電設備設置工事について、札幌市都市局建築部電気設備課ほか関係者参集のもと施工に向けた協議(設計、施工計画など)が、6月から始まった。</p> <p>▽ 防災</p> <p>▼計画に基づき避難訓練を行い、防災設備のしくみ・少ない人数で避難する場合の職員間の連携事項などを確認し、防災時に具体的な行動ができるよう訓練した。ただし、全利用者参加による総合的な訓練は、新型コロナウイルス感染予防の観点から実施しなかった。</p> <p>▼洪水を想定した訓練、地震想定訓練も行い、併せて非常用備品の点検も行った。</p>	<p>○自家発電設備設置に向け、札幌市及び関係業者と連携を図りながら進めることができた。</p> <p>○施設・設備の維持管理全般について、札幌市担当部署と連携をしながら適切に進めていくことができた。</p> <p>○防災対策に係る職員意識が醸成され、避難行動の想定が定着してきた。</p>									
<p>(4)事業の計画・実施業務</p>	<p>▽ 自閉症・発達障がいに関する学習機会の提供業務</p> <p>▼おがるでは、令和2年度実績で、主催または共催研修、講師派遣268回(2868人)を実施している。</p> <p>▼ゆいでは、発達障害のある方への支援を学ぶ目的を持つ実習生の受け入れを行った。具体的には、大学生の実習や、全日本自閉症支援者協会主催のスーパーバイザー養成(SV)研修の対象実習生、また他法人の職員を3ヵ月間受け入れた。</p> <p>▽ 自閉症・発達障がいに関する情報収集及び提供業務</p> <p>▼おがるでは、ホームページ等で自閉症や発達障がいに関する情報や他機関主催の研修会情報などを随時お知らせしている。</p> <p>▼おがるでは、コロナ禍でも支援者や一般の方が発達障害に関する情報が得られるように、YouTube上に公開動画や申込者限定の動画を用意している。</p> <p>▼ゆいでは、定期的にホームページの更新をおこなっている。</p> <p>ゆい内の活動や各種委員会の活動について、具他的な実践などを掲載している。</p> <p>▽ 自閉症や発達障がいに関する相談業務</p> <p>▼おがるでは、ご本人・ご家族・支援者の方々への相談支援、発達支援、就労支援、機関コンサルテーションなどを行っている。その件数については、(5)の項で示す。</p>	<p>○全国一の児童デイの数や就労系事業所の増加、または他分野での発達障がいの問題のため、できる限り多くの講師派遣を実施することができたが、まだまだ研修の依頼に対応していく必要がある。</p> <p>○月1回のホームページ制作会議を行い情報量を増やしてきた。今後は他の専門機関と連携してさらに充実したホームページにしていく。また、啓発にかかわることも含めて、今後もオンラインを活用し、メニューを増やしていく方向性で考えている。</p> <p>○今年度はオンラインで対応できる業務は可能な限りオンラインを活用しながら業務に取り組んだ。オンラインができる環境を整えていくのも今後の課題としてあげられる。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> <p>・当事者やその家族、支援者等への支援を目的とした研修や講師派遣、ホームページでの周知等により、自閉症・発達障がいに対する情報等の普及啓発活動を積極的に実施している点は特に高く評価できる。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	<p>・当事者やその家族、支援者等への支援を目的とした研修や講師派遣、ホームページでの周知等により、自閉症・発達障がいに対する情報等の普及啓発活動を積極的に実施している点は特に高く評価できる。</p>			
A	B	C	D								
<p>・当事者やその家族、支援者等への支援を目的とした研修や講師派遣、ホームページでの周知等により、自閉症・発達障がいに対する情報等の普及啓発活動を積極的に実施している点は特に高く評価できる。</p>											

(5)施設利用に関する業務	▽ 利用件数等 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>R元実績</th> <th>R2計画</th> <th>R2実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">入所</td> <td>利用件数(件)</td> <td>361</td> <td>360</td> <td>370</td> </tr> <tr> <td>延べ利用日数(日)</td> <td>10,872</td> <td>10,476</td> <td>11,123</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>99.0%</td> <td>95.7%</td> <td>101.6%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">短期入所</td> <td>利用件数(件)</td> <td>141</td> <td>132</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>延べ利用日数(日)</td> <td>772</td> <td>653</td> <td>497</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>35.2%</td> <td>29.8%</td> <td>22.7%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">デイ(生活・訓練)</td> <td>利用件数(件)</td> <td>609</td> <td>612</td> <td>631</td> </tr> <tr> <td>延べ利用日数(日)</td> <td>12,804</td> <td>12,426</td> <td>13,392</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>108.6%</td> <td>108.6%</td> <td>117.1%</td> </tr> </tbody> </table>			R元実績	R2計画	R2実績	入所	利用件数(件)	361	360	370	延べ利用日数(日)	10,872	10,476	11,123	稼働率(%)	99.0%	95.7%	101.6%	短期入所	利用件数(件)	141	132	85	延べ利用日数(日)	772	653	497	稼働率(%)	35.2%	29.8%	22.7%	デイ(生活・訓練)	利用件数(件)	609	612	631	延べ利用日数(日)	12,804	12,426	13,392	稼働率(%)	108.6%	108.6%	117.1%	○入所は30名定員である。今期はGHへの移行者はいない。8月～10月にかけて、長期入院者が1名いた。この利用者は入院を繰り返す懸念があったため、計画日数は控えめな計上となっている。また、コロナ禍で、帰省の「自粛要請」を行ったため、稼働率が大幅にUPしている。半面、「短期入所」はコロナ感染を危惧して、12月から厚別区からの自宅利用者1名のみ制限(自粛)したため、近年にない低稼働率となった。(22.7%) 生活介護(定員44名)は、52名の利用実績のところに、5月から1名(女性)が増員となったため、稼働率を押し上げた。また、感染予防の観点からGH閉鎖対応も数日あったが、大事には至らなかったため、通所者は堅調な稼働実績となった。 ○新型コロナウイルスの影響もあり、相談支援など、昨年度より件数が少ない数字も見られるが、オンラインの活用や電話受付を中心に相談や機関支援などを実施し、件数を維持することができた。	A B C D
			R元実績	R2計画	R2実績																																										
入所	利用件数(件)	361	360	370																																											
	延べ利用日数(日)	10,872	10,476	11,123																																											
	稼働率(%)	99.0%	95.7%	101.6%																																											
短期入所	利用件数(件)	141	132	85																																											
	延べ利用日数(日)	772	653	497																																											
	稼働率(%)	35.2%	29.8%	22.7%																																											
デイ(生活・訓練)	利用件数(件)	609	612	631																																											
	延べ利用日数(日)	12,804	12,426	13,392																																											
	稼働率(%)	108.6%	108.6%	117.1%																																											
▽ 利用件数等(おがる) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>R元実績</th> <th>R2計画</th> <th>R2実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">相談支援 発達支援</td> <td>件数(件)</td> <td>973</td> <td>1,030</td> <td>886</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>864</td> <td>610</td> <td>752</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">就労支援</td> <td>件数(件)</td> <td>106</td> <td>50</td> <td>111</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>95</td> <td>30</td> <td>96</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">機関 コンサル</td> <td>件数(件)</td> <td>1,563</td> <td>1,000</td> <td>1,351</td> </tr> <tr> <td>箇所数</td> <td>113</td> <td>100</td> <td>130</td> </tr> <tr> <td>個別調整会議</td> <td>回数</td> <td>90</td> <td>100</td> <td>84</td> </tr> </tbody> </table>			R元実績	R2計画	R2実績	相談支援 発達支援	件数(件)	973	1,030	886	人数(人)	864	610	752	就労支援	件数(件)	106	50	111	人数(人)	95	30	96	機関 コンサル	件数(件)	1,563	1,000	1,351	箇所数	113	100	130	個別調整会議	回数	90	100	84	▽ 利用促進の取組 研修会の企画、発表、見学者への事業説明等、さまざまな機会を通して、施設の紹介を行っている。	○強度行動障がいを伴う重度の自閉症の方々への支援や地域移行に対する取り組みは、全国でも関心が高く、ゆいで実践している取り組みについては、例年見学などを通して説明している。今年度は、感染拡大防止の観点から、見学などの機会が少なくなってしまったため、オンラインを活用する取り組みも行った。 ○また、見学を実施した際には、感想や意見などを頂く機会を設けることができるように努め、頂いた意見を関係者にて振り返る場も設けている。	A B C D							
		R元実績	R2計画	R2実績																																											
相談支援 発達支援	件数(件)	973	1,030	886																																											
	人数(人)	864	610	752																																											
就労支援	件数(件)	106	50	111																																											
	人数(人)	95	30	96																																											
機関 コンサル	件数(件)	1,563	1,000	1,351																																											
	箇所数	113	100	130																																											
個別調整会議	回数	90	100	84																																											
(6)付随業務	▽ 広報業務 ▼インターネット上で法人ホームページ及び事業所のページを掲載している。 http://www.harunire.or.jp/ ゆいのページでは、随時、イベント報告や実践報告等をアップしている。おがるのページではさまざまな研修会情報をお知らせしている。 ▼当施設への見学者であるが、感染拡大防止のため、受け入れを自粛していたこともあり、8名のみ来所されている。保護者、学校教諭、相談機関の方の見学依頼に対応している。また、見学の代替えとして、オンラインを活用したヒヤリングや大学からのアンケート調査に協力している。インターシップの受け入れについても可能な範囲で対応し、自閉症についての啓発活動を行うことができたのではないかと考えている。	▽ 引継ぎ業務 (前回から継続指定のため、引継業務なし)	○各種広報媒体を利用した活動は評価できる。 ・強度行動障がい有する自閉症者の地域移行の実績の高さや取組内容が高く評価され、コロナ禍においても相当数の見学依頼を受けていることから、広報業務は適正になされていると評価できる。	A B C D																																											

2 自主事業その他		A	B	C	D
<p>▽ 自主事業</p> <p>▼近隣のグループホームに空き室があるため、1名の利用者が移行に向けて準備や体験利用をおこない、7月に移行することが出来た。</p> <p>もう一名も別のグループホームへの移行準備を進めていたが、コロナウイルスの感染状況を踏まえ一時休止することとなった。今後も、感染の状況やタイミングを図り、グループホーム移行に向けてのチャレンジを進めていきたい。</p> <p>▼地域生活に戻るチャンスがあればいつでも手を挙げられるよう準備をしている。コロナ禍ではあるが、感染の状況を確認しつつ今後も地域生活のシミュレーションを継続していくというスタンスを維持していきたい。</p> <p>▼ゆい生活介護の利用者をこれ以上受入れることが難しいことから、新たに生活介護事業所の立上げを計画し、建物建設を進めている。2021年5月の開所に向け、建物内の環境調整や、利用者移行に向けての準備も同時に進めている。</p> <p>▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等</p> <p>▼利用者の生産活動への参加促進という視点から、東区内の障がい者雇用を促進する野菜の加工業者や札幌市内のリサイクル業者から仕事を請け負い、利用者に工賃の還元を行っている。</p> <p>▼前年度に引き続き就労継続支援施設(精神障がいの方が多く)へ軽微な施設修繕等を依頼し、障がいをもった方に作業をしてもらっている。</p>	<p>○ゆいの地域移行を進める上でゆいの近隣にあるグループホームよもぎの体験利用を活用している。今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、1名の方が延べ25日の利用に留まることとなった。体制の都合上、月に数回程度の実施に限られてしまうという現状はあるが、スタッフも利用者も地域での生活イメージを持つことで、課題と対策を考えるきっかけとなった。特に新型コロナウイルスの感染については、ゾーニングなどのイメージを持つことが出来た。</p> <p>○新たな生活介護事業所の開所に向けて準備を進める一方で、ゆいの生活介護事業所に新たな利用者の受け入れを進めるためのプロジェクトチームを立上げ、検討に入ることが出来た。職員の体制が整うことで、新規利用者の受け入れを順次進めていきたい。</p> <p>○請負作業は継続的に依頼され、利用者の生産活動に寄与している。</p> <p>○就労継続支援施設への修繕依頼については、利用者特性に合った対応がなされている。</p>	<p>A B C D</p> <p>・適正に事業を実施している。</p>			

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果

▼令和3年2月に、親和会会員のご家庭にアンケート調査用紙を郵送した。回答数は29で回収率は約94%となっている。新型コロナウイルスの影響で、活動や懇談などの自粛が続いたこともあり、利用者さんの余暇活動や懇談についての項目は、前年度を下回っている。

○全体の評価では、5段階評価の4以上(とてもよい、よい)は、83%となっている。オンライン面会を実施するなど新たな取り組みも試みており、コロナ禍でもニーズに応えられるようにしていきたい。全職員及び親和会総会にて回答結果を示している。

A	B	C	D
---	---	---	---

・要求水準を上回る満足度であり、評価できる。

〈質問 1〉 当センターを利用して、利用者さん(お子様)の状態は改善してきたと感じますか？

- 5. とても感じる 4名
- 4. 感じる 23名
- 3. 変わらない 2名
- 2. やや悪くなった 0名
- 1. 悪くなった 0名



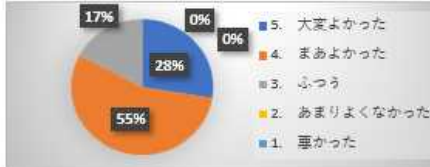
〈質問 2〉 当センターの建物の管理と清掃は行き届いていますか？

- 5. とてもよい 11名
- 4. よい 14名
- 3. ふつう 4名
- 2. あまりよくない 0名
- 1. 悪い 0名



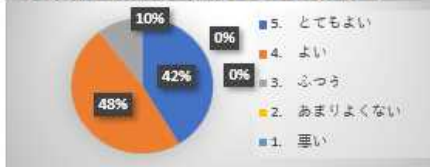
〈質問 3〉 当センターの利用者さんに対する職員の対応は適切だと思いますか？

- 5. 大変よかった 8名
- 4. まあよかった 16名
- 3. ふつう 5名
- 2. あまりよくなかった 0名
- 1. 悪かった 0名



〈質問 4〉 当センターの自閉症や発達障がいの人に対する支援の考え方をどう思いますか？

- 5. とてもよい 12名
- 4. よい 14名
- 3. ふつう 3名
- 2. あまりよくない 0名
- 1. 悪い 0名



〈質問 5〉 個別支援計画に係る懇談の内容に満足していますか？

- 5. とても満足している 4名
- 4. 満足している 19名
- 3. ふつう 6名
- 2. あまり満足していない 0名
- 1. 悪い 0名



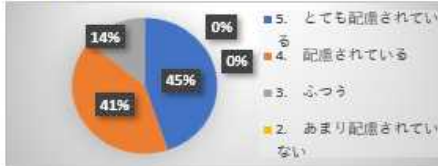
〈質問 6〉 職員は利用者さんやご家族の相談をよく聞いていますか？

- 5. とても良く聞いてくれる 9名
- 4. よく聞いてくれる 15名
- 3. ふつう 5名
- 2. あまり聞いてくれない 0名
- 1. 聞いてくれない 0名



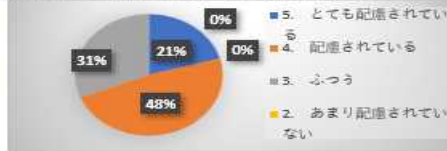
〈質問 7〉 日常生活において、利用者さんの健康面については配慮されていると思いますか？

- 5. とても配慮されている 13名
- 4. 配慮されている 12名
- 3. ふつう 4名
- 2. あまり配慮されていない 0名
- 1. 配慮されていない 0名



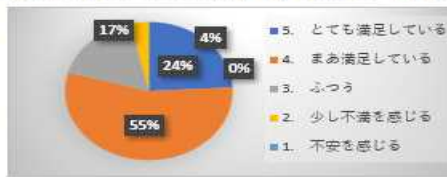
〈質問 8〉利用者さんの余暇が充実するよう配慮されていると感じますか？

5. とても配慮されている	6名
4. 配慮されている	14名
3. ふつう	9名
2. あまり配慮されていない	0名
1. 配慮されていない	0名



〈質問 9〉利用者さんが地域の暮らしを選択するというのに対してどう感じていますか？

5. とても満足している	7名
4. まあ満足している	16名
3. ふつう	5名
2. 少し不満を感じる	1名
1. 不安を感じる	0名



〈質問 10〉

当センターに対するご意見やご要望がありましたら、お書きください。

- ・新型コロナウイルス対策で大変でしょうが、センターの職員の皆様よろしくお願いします。
- ・いつもきめ細かい対応をして頂き、感謝しております。今後ともよろしくお願致します。
- ・コロナでとても不自由な生活と思います。いつも感謝しております。
- ・コロナ禍の中、外泊できないので写真を送ってほしい。安心・安全な生活を支援してほしい。
- ・いつもありがとうございます。これからもよろしくお願致します。
- ・コロナ感染対策、引き続きよろしくお願いします。
- ・施設暮らしが長くなり、このままずっと施設で暮らすのか？のような感覚になり、悲しく感じる。施設での人手の手厚さを考えると、今が良いか？とも思い複雑な思いです。
- ・この1年コロナ禍において、本人たちの帰省や面会ができない中、日常生活、余暇支援など本当によ心を配って頂いたと思います。ありがとうございます。
- ・いつも色々な点について、先生などがとても考えて配慮して頂いています。今後ともよろしくお願致します。

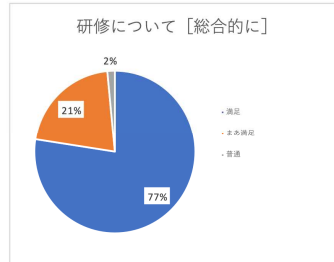
※アンケートのご協力ありがとうございました。

▼札幌市自閉症・発達障害支援センターでは主催研修(発達障がい講座スタンダード)と機関支援についてアンケートを行った。

○発達障がい講座スタンダード実施方法:オンライン
受講機関・者:60事業所+32名

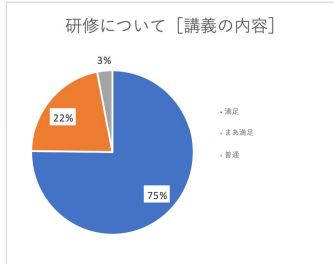
3.研修についてはいかがでしたか [総合的に]

行ラベル	回答
満足	103
まあ満足	28
普通	2
集計	133



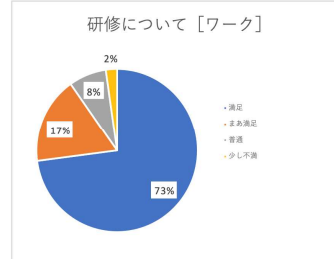
3. [講義の内容について]

行ラベル	回答
満足	100
まあ満足	29
普通	4
集計	133



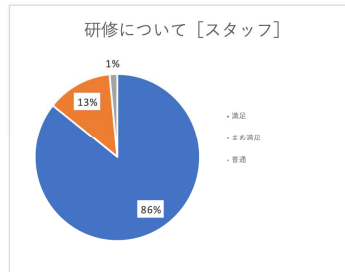
3. [ワークについて]

行ラベル	回答
満足	97
まあ満足	23
普通	10
少し不満	3
集計	133



3.[スタッフについて]

行ラベル	回答
満足	114
まあ満足	17
普通	2
集計	133

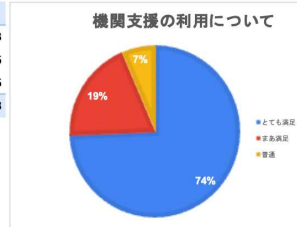


○機関支援

機関96数か所(3回以上訪問した事業所を対象)
 回答数78か所 (回収率81.3%)

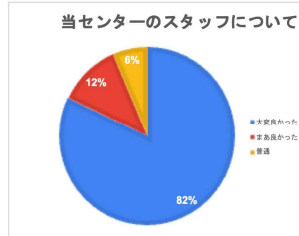
2.当センターの機関支援の利用について

行ラベル	2.機関支援について
とても満足	58
まあ満足	15
普通	5
総計	78



3.当センターのスタッフについて

行ラベル	スタッフについて
大変良かった	64
まあ良かった	9
普通	5
総計	78



4 収支状況

▽ 収支(入所・生活介護会計:ゆい) (千円)			
項目	R2年度計画	R2年度決算	差(決算-計画)
収入	345,445	348,834	3,389
指定管理業務収入	345,445	348,834	3,389
指定管理費	20,572	20,572	0
利用料金	19,283	19,334	51
その他	305,590	308,928	3,338
自主事業収入	0	0	0
支出	345,383	344,669	▲ 714
指定管理業務支出	345,383	344,669	▲ 714
自主事業支出			0
収入-支出	62	4,165	4,103
利益還元			0
法人税等			0
純利益	62	4,165	4,103

▽ 説明

収入において、計画との大きな差異が見られるのは「その他」の収入であり、3,338千円の増となっている。「その他」の収入には『自立支援給付費収入』が含まれており、「施設入所支援」の収入増・「短期入所」の収入減・「生活介護収入」の増(3,245千円)が源泉である。

また、支出においては、「指定管理業務支出」が計画より714千円少ない。要因は多々あるが、「事業費」及び「事務費」支出の減に対し、「人件費」の増が上回ったことによる。この「人件費」の増は、「処遇改善見込み額」の計算差異に依るものである。他はほぼ計画通りの推移であった。来期の収入減に備えて「人件費積立金」3,000千円を積み立てている。上記の結果として、4,165千円の純利益となった。

○今期の収入については、コロナのプラス要因がマイナス要因を上回った恰好になっている。言い換えれば、在宅組の「利用自粛」や感染拡大防止のためのGHの「一時的閉鎖」という減益要因と相まって、入所利用者の「帰省・外泊自粛」が、逆に安定収入に繋がったということである。また、生活介護利用者1名が5月から増員になったことも収益UPに大きく貢献している。

○支出については、女性職員の休暇取得等による人件費の微減等もあるが、「水光熱費」の減1,541千円が大きい。また、「保険衛生費」がコロナ禍で、4,000千円に迫る支出となり、見込み額を大きく上回った。

また、ここ数年の傾向であるが、今期も、老朽化による「修繕箇所」の多発により、予算通りの3,000千円越えとなっている。

特記としては、コロナ対策の一環として作業館内に「シャワー室」(429千円)を設置している。

○次期以降の収支は、現下のコロナ禍における、「生活介護」利用者の増員如何により命運が左右される。

A	B	C	D
<p>・計画を上回る収益となっており、安定的な運営が図られている。</p> <p>・なお、収支差額を利用して新型コロナウイルス感染症対策を実施したことは、特に高く評価できる。</p>			

▽ 収支(発達会計:おがる) (千円)			
項目	R2年度計画	R2年度決算	差(決算-計画)
収入	46,726	46,802	76
指定管理業務収入	46,726	46,802	76
指定管理費	40,571	40,637	66
利用料金	0	0	0
その他	6,155	6,165	10
自主事業収入			0
支出	46,484	44,287	▲ 2,197
指定管理業務支出	46,484	44,287	▲ 2,197
自主事業支出			0
収入-支出	242	2,515	2,273
利益還元			0
法人税等			0
純利益	242	2,515	2,273

○おがるの業務は、専門性に裏付けられた高い経験値を要することから、それに対応できる職員の配置、及び継続採用により、結果的に人件費が高んでしまうという構造的な不均衡の状態が、今期も続いている。

おがるの業務は必要であるため、今後も「機関支援」・「(遠隔の)専門研修」等を持続可能なものとするためには、何らかの収入を確保するか、人員を削減するかのいずれかしかない。

▽ 説明

収入の「指定管理費」は、指定管理の受託収入30,408千円と地域支援機能強化事業の委託費10,230千円の合計である。「その他」の収入には、労働局での講師の謝金等が含まれる。「指定管理費」の予算差異(66千円)は予算当初の認識額とのズレである。

支出の予算差異に関しては、「事業費支出」の減(¥875千円)や「事務費支出」の減(887千円)に依るところが大きい。コロナ禍での研修費・水光熱費等の減、備品類の購入削減が功を奏した。また「修繕積立金取崩」も黒字損益に貢献したことを付記する。

結果として、計画より収入は76千円の増、支出も2,197千円の減となり、3年ぶりに2,515千円の純利益を計上することができた。

<確認項目> ※評価項目ではありません。		
▽ 安定経営能力の維持 ▼法人全体では黒字経営が続いており、ゆいとおがるの経営に万が一の危機が生じたとしても十分に助けられるだけの能力を有している。		適 不適 ・安定した運営を保持している。
▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応 ▼各条例の規定に則り、全て適切に対応している。		適 不適 ・各条例を順守し、適正に対応している。

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p>ゆいの使命としては「地域生活へ戻す」取り組みの推進や、不適応行動に対して予防の視点を持ち家庭生活等へのサポートをすることである。この使命に向かって進むキーワードとして「最前線と最高峰をめざして」を掲げ、そのために「支援力を上げる」「組織力を高める」「人間力を磨く」という3つの観点からの取り組みを進めた。</p> <p>「地域に戻す」という使命に関して、令和2年度は地域へ戻すための取組みを進めることができた。東区中沼にあるグループホームの空き室に、1名の入所利用者が移行した。それに伴い、入院中の利用者1名に入所利用いただくことが出来た。また、生活介護では新たに1名の利用者を受け入れることができた。事前の準備として、ご本人情報を収集するとともに関係者で移行のシミュレーションを重ねることで、現在も落ち着いた生活や活動を送ることが出来ている。</p> <p>短期入所については、他利用者との相性や性別への配慮、児童と成人の住み分けなどにも配慮し短期入所の利用をすすめている。令和2年度はコロナウイルスの感染状況を踏まえ、利用の自粛要請と緩和を繰り返しつつ、緊急性のあるニーズに対しては、感染の予防に向けての情報交換を密におこない、ご利用いただいた。今期は、新規ご利用は成人1名であった。日中一時のご利用からスタートし、宿泊に向けて準備をすすめていたが、コロナウイルスの影響から宿泊利用は見送ることとなった。</p> <p>短期入所を利用いただくにあたり、一定の手続きでアセスメントや引継ぎができるよう、受け入れ側の効率化を図るための協議を行った。</p> <p>また、地域を支えるという視点から、法人で隣接地を購入し、新生活介護事業の建設を開始した。在宅の方々を生活介護部門で受け入れる枠がない現状を打破することや、緊急ショートステイ事業の展開が地域への貢献につながると考えている。現在、建物上必要な配慮や対象利用者など協議を進め、2021年5月に開所予定である。</p> <p>3つの観点に関してであるが、「支援力を上げる」ひとつとして、一名の入所利用に伴い法人全体でのケースカンファレンス開催や、医療機関との情報交換を密に行い、情報の収集や支援の可能性について活発な意見交換を行うことができた。また、コロナ禍ではあるが、職員の学びを応援するために年4回のゆい塾を開催した他、道内外の研修や法人内事業所交流などもリモートや動画視聴等で実施した。</p> <p>「組織力を高める」取り組みとして、人権推進委員会が企画した「利用者対応に関するセルフチェック」を2回実施し、結果の違いを分析すると共に、全体に反映することで、共通意識を高めることができた。また例年の余暇委員会では、動画作成などを行い保護者と共に意見交換会を実施していたが、コロナウイルスの感染予防の観点から、実施を見送ることとなった。代わりに、職員間で協力し日々の利用者の様子を写真に収め、全ての保護者にアルバムとして贈ることができた。そして「人間力を磨く」取り組みとして、作業委員会や余暇委員会から利用者のアート作品の製作、カラフルブレインアートフェスティバルは、コロナの影響で実施することは出来なかったが、ゆい内で展示することができた。</p> <p>ゆいにおいては、入所の各ブロックや生活介護、4つの委員会を中心として、医療・栄養・事務・地域等、利用者の方々の生活を支える関係スタッフとの協働が日常的に行われている。コロナウイルス感染予防のため、最小人数での会議開催など3密の回避を実践すると同時に、情報共有を重視した。権利擁護や人権感覚を養うための研修や専門スキルや職業人として、また医療の基本的な知識を高めるための研修、関係スタッフとのケースカンファレンスなど活発に行われている。</p> <p>コロナウイルスの感染予防については、法人としての啓発のみならず、ゆい内でもフェーズ3を示し具体的な予防策の実施とともに、利用者の外出など感染リスクを減らすための協議と取組みが行われた。いつもと違う日課になることで不安定な状況になることも多くあるが、新たな生活様式にチャレンジするため粘り強く対応しているスタッフの日頃の努力と奮闘にあらためて敬意を表したい。</p>	<p>ゆいの使命として、行動上の問題に対する予防的な支援と地域生活の実現を掲げている。そのための具体的な骨子を共通言語として打ち出すことで、職員全体の意識をまとめていきたいと考えている。</p> <p>最前線と最高峰をめざして</p> <p>◇地域に戻る取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ①地域に戻る取り組みの継続 <ul style="list-style-type: none"> →コロナ禍ではあるが、移行に向け丁寧にする →新たな入所利用者の受け入れをすすめる <ul style="list-style-type: none"> 事前に情報の収集と受け入れのための準備 ②よもぎの体験利用 <ul style="list-style-type: none"> →移行シミュレーションに基づいた計画的利用 →女性利用者や日中のみ利用など利用方法の工夫 <p>◇バックアップ施設としての役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ①グループホーム支援体制維持のための仕組みづくり ②地域の方々へのサポート <ul style="list-style-type: none"> ③新規の短期入所の利用ニーズに対応する ④ショートステイ利用の際の効率化(アセスメント)を図る <ul style="list-style-type: none"> 隣接する地域生活支援センター「なないろ」との役割分担をすすめる ⑤地域生活支援センター「なないろ」開所の準備を具体的にすすめる ⑥生活介護事業所の新規利用者の受け入れ <p>◇地域への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ①コロナ禍でも可能な支援者実習の受け入れ ②町内会活動への参画とゆいイベントへの招待 ③災害時の協働 <p>ゆいバリューに基づく実践</p> <p>◇「証」 根拠に基づくチャレンジをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ①個別支援計画の書式をブラッシュアップする ②ゆい塾の効果的活用(コロナ禍での動画配信等を駆使して) <ul style="list-style-type: none"> 学び、プレゼン力、医療知識など ③全員が何らかの研修に参加できるように <ul style="list-style-type: none"> 座学、ワークショップ、法人内の事業所研修など ④プレゼン力を磨くため複数職員による発表の場を確保 ⑤「和」 チームとして一流をめざす <ul style="list-style-type: none"> ⑥チーム支援(年3回)によるチームカアップと全体への還元 ⑦新職員のためのエルダーメンターシステムとその振り返り ⑧機能的な組織となるよう業務の効率化及び各職員の役割を具体化 <p>◇「快」 きれいなゆいを常にめざす</p> <ul style="list-style-type: none"> ①修繕や整備予算の確保 <ul style="list-style-type: none"> 破損修復や予防のための整備など計画的な修繕をすすめる ②職任分離を進めるための支援プランづくり ③ゆい親和会と協働で、環境の美化に努める <p>◇「続」 最強の支援力はコツコツである</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ゆいバリューの確認と振り返り ②人権意識の向上に関する取り組みの継続 ③ヒヤリハットからディスカバリー(発見)報告への転換と定着化 ④誤薬防止への強い意識と啓発活動 ⑤コロナウイルスへの感染予防と利用者サービスへの配慮と工夫 <p>新しい生活様式の実践を積み重ねる(マスク着用、手指消毒など)</p> <p>◇「安」 やわらかくおだやかな雰囲気のある職場でありたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ①年3回程度の余暇企画とセルフチェックの実施継続 ②夜間避難や水防対策の訓練と課題の検証 ③各種書類の重要性と書き方のレクチャー <p>◇「暖」 私たちの好感度が上がれば、利用者さんの好感度も上がる</p> <ul style="list-style-type: none"> ①アートで工賃を還元できることをめざした取り組みを深化・発展 <ul style="list-style-type: none"> ②既存の商品に付加価値を付ける視点でのアート展開 ③社会人(職業人)としてのマナーアップについての取り組みを継続

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
<p>自閉症者自立支援センターは、強度行動障がいを持つ利用者に対して、専門的かつ模範的な取組を行っており、特に高く評価できる。また、地域移行においては、法人が運営するグループホームの体験利用等の積極的な活用により、地域移行の推進を図っている点も評価できる。</p> <p>自閉症・発達障がい支援センターは、研修等を通じ、自閉症・発達障がいに関する普及・啓発活動を積極的に行うなど、本市の基幹支援施設としての機能を十分に発揮しており、高く評価できる。</p>	<p>全体としては、十分な利用率を確保しているが、短期入所においては引き続き利用率の向上の方策を検討していただきたい。</p>